令和７年度

後　期　学　校　評　価



内船歌舞伎公演（１年生出演）より

南部町立南部中学校

令和７年度後期自己評価
学校経営方針の７つの柱に沿っての分析と改善策

はじめに～今年度の後期自己評価を分析する視点と改善点について～

【分析する上での基準について】
　平均値が 3.0 以上の項目については、全体として肯定的な評価をいただいたものと捉え、同じく平均値が 3.5 以上の項目については、とても高い評価をいただいたものと捉えて分析を行った。

【その他】
◇　総括文の構成を前期までの形式から次のように変更した。「全体を俯瞰しての分析」「際だって良い結果と考えられる項目についての分析」「課題となる項目についての分析」の３つの視点から、来年度に向けての方向性を示した。
◇　昨年出された改善点についてのご意見から、保護者アンケートに「わからない」の項目を加えた。「分からない」の数値については、来年度のアンケート項目の編成を考える際の資料としていく。
◇　表記の仕方について、例えば「教職員による評価結果の１－（２）」を「教職員（２）」のように、簡略化して表記する。保護者、生徒についても同様とする

Ⅰ　校　訓
◎　明朗親和　　明るく朗らかで，互いに和やかに親しむこと　　（あかるく）
◎　質実剛健　　飾り気がなくまじめで，心身ともに強くたくましいこと　　（つよく）
◎　自主自律　　自発的に考え行動し，自らの規範に従い自己を律すること　（のびやかに）

Ⅱ　学校教育目標（めざす生徒像）
◇　ふるさとを愛し，自他の良さを認め合い，絆を大切にする生徒
◇　社会の一員としての自覚を持ち，健康でたくましく生きる生徒
◇　真理を追究し，夢の実現へ向け努力できる生徒

Ⅲ　めざす教師像
○　高い理想と強い使命感を持ち，学び続ける教師
○　確かな指導力を持ち，共感的生徒理解に努め，信頼される教師
○　教育的愛情と高い規範意識を持ち，心身ともに健全な教師
○　チーム南部中の一員として，学校運営に積極的に参画する教師

Ⅳ　学校経営の理念
【経営理念】　「地域とともにある南部中学校の創造！」
～子どもたちの豊かな学びを創造し，地域の絆をつなぐコミュニティ・スクールとして～
【実践理念】　「気づき・考え・行動　そ して感動」

対象	質問内容		平均値	最頻値	前期平均値	保護者わからない%
教職員	0-(1)	本校の「学校教育目標」や「学校経営方針」は、今日的教育課題をふまえ、南部中学校の実態に即したものになっている。	**3.65**	**4**	**3.53**	
	0-(2)	私の学年、学級、分掌の教育活動計画は学校の「学校教育目標」や「学校経営方針」をふまえたものになっている。	**3.65**	**4**	**3.57**	
	0-(3)	私は「めざす教師像」を意識しながら、日々の実践にあたっている。	3.38	3	3.31	
	0-(4)	私は、経営理念「地域とともにある南部中学校の創造！」、実践理念「気付き・考え・行動　そして感動」を意識して、教育活動を進めている。	3.41	3	3.41	
保護者	0	本校の「学校教育目標」や「学校経営方針」は、今日的教育課題をふまえ、南部中学校の実態に即したものになっている。	3.28	3		13.4%
生徒	0-(1)	私は、「学校教育目標」（めざす生徒像）を理解し、「あかるく、つよく、のびやかに」学校生活を送っている。	**3.62**	**4**	3.49	
	0-(2)	私は、実践理念「気付き・考え・行動・そして感動」の過程を意識して、授業や行事、部活動など学校生活を送っている。	**3.56**	**4**	3.47	

【分析】

すべての項目の平均値が前期と同じ、もしくは高くなっているという結果となった。保護者の平均値も 3.0 を上回っている。

中でも平均値が 3.5 を上回る項目が４つある。特に生徒については２つの項目全てがそれにあたり、生徒たちが校訓や実践理念の言葉を意識しながら学校生活を送っていることが読み取れる。特に実践理念の「気付き、考え、行動、そして感動」については、生徒総会をはじめ、生徒会主催の集会等で随時取り上げて全校で確認されており、主体的な活動に取り組む上での合い言葉のような存在となっている。こうしたことが今回の高い評価につながっているものと考える。同様に、教職員についても学校教育目標や学校経営方針について理解されている結果となっており、総じて学校教育目標や学校経営方針が、学校や生徒たちの実態に即したものとなっていると考えられる。

一方で保護者については、3.0 を上回ってはいるものの教職員や生徒に比べると低い。言葉としては分かっていても、実際の教育活動を見る機会が少ないため、自信をもって「そう思う」と言えない状況であることも、この結果の一因ではないかと考える。現在も「校長だより」をはじめ各種たより等で教育活動を紹介する他、「学校開放」を行って授業の様子を見ていただいたり、各種行事に参加していただいたりしている。こうした活動の広報をさらに広めるなど、南部中学校の教育活動をより一層知っていただけるよう、努力を重ねていくことが大切であると考える。

校訓、学校教育目標、めざす教師像、学校経営の理念は、新南部中創立時（統合時）の願いを元にしており、その間、若干の修正を加えてはいるが、これまでの学校の歴史と文化を受け継いできた思いが込められている。教職員・生徒・保護者にも深く理解されていることから、基本的な内容は来年度も継続していきたい。

1「生きる力」を育む適切な教育課程の編成と実施に努める <※教務主任、教頭、各教科主任>

①「コミュニティ・スクール」として、社会に開かれた教育課程の編成とその実践に努める。
②小中連携や「連携型中高一貫教育校」としての取り組みを進め、小・中・高の接続を意識した効果的な教育課程の編成と実践を行う。特に中・高においては体系化されたキャリア教育の推進に努める。
③新学習指導要領に基づき生徒や学校の実態に即して教育課程を編成、実施し、ＰＤＣＡサイクルによって改善に努める。
④地域の特色を生かした教育を推進し、郷土への理解と誇りを持てるようにするとともに、外国語教育を充実させることを通して、グローバル社会の中で様々な人と協働できる資質の育成に努める。

対象		質問内容	平均値	最頻値	前期平均値	保護者わからない%
教職員	1-(1)	本校は、コミュニティ・スクールとして、保護者や地域に積極的に情報を発信し、保護者や地域の声を学校経営や教育活動に生かしている。	3.47	3	3.53	
	1-(2)	本校は、小中連携、連携型中高一貫教育校としての取り組みを推進し、小中高の連携を意識した教育課程の編成と実施に努めている。	3.47	3	3.47	
	1-(3)	本校は、学習指導要領に基づき、生徒や学校の実態に即した教育課程を編成し、ＰＤＣＡサイクルによる改善を図っている。	3.24	3	3.06	
	1-(4)	本校は、地域の特色を生かした教育活動を推進し、郷土への理解と誇りを育む教育活動を展開している。	3.47	3	3.71	
保護者	1-(1)	学校では、生きていく上で必要な知識や技術、考えなどを学ぶことができている。	3.10	3		7.4%
	1-(2)	学校行事は楽しく、生徒のためになっている。	3.35	3		4.4%
	1-(3)	輝城祭や音楽発表会は、生徒の豊かな心を育てる上で意義ある活動になっている。	3.54	4		0.0%
	1-(4)	学校は、地域の特色を生かした教育活動を推進し、郷土への理解と誇りを育む教育活動を展開している。	3.20	3		4.5%
	1-(5)	「職業ガイダンス」「職業体験学習」「高校学習会」などのキャリア教育に関わる行事や進路学習は、生徒にとって将来を考えるよい機会となってい	3.31	3		4.4%
生徒	1-(1)	学校では、生きていく上で必要な知識や技術、考えなどを学ぶことができている。	3.65	4	3.64	
	1-(2)	学校行事は楽しく、自分のためになっている。	3.76	4	3.64	
	1-(3)	学級活動、学年活動、生徒会活動（委員会）は集団での力をつける機会になっている。	3.72	4	3.65	
	1-(4)	輝城祭や音楽発表会は力を伸ばし、成就感が得られる行事になっている。	3.84	4		
	1-(5)	「職業ガイダンス」「職場体験学習」（以上２年生）「高校学習会」・「高校調べ」（以上３年生）などは、自分の将来や生き方を考える機会となって	3.74	4	3.82	
	1-(6)	部活動は、自分の力を高め、授業では学べないことを学べる機会になっている。	3.75	4	3.66	
	1-(7)	身延高校との連携(アシスト授業、合同部活動等)は役に立っている。※関係している生徒のみ回答して下さい。	3.54	4	3.56	

【分析】

教職員の数値がすべての項目で 3.0 を上回っており、前期と比べても大きく劣らない結果となった。保護者についてもすべての項目で 3.0 を上回っており、学校での教育活動が一定程度理解されているものと考えられる。特に実際に参観できた音楽発表会・輝城祭などについては 3.5 を上回っており、これらの行事が、生徒の豊かな心を育てる活動と捉えられているものと考える。生徒については、すべての項目で 3.5 を上回っており、さらにほとんどの項目が､前期の値を上回る結果となっている。

特に生徒からの評価が高い理由として、後期は輝城祭や音楽発表会など、成就感のもてる行事があったことが要因の一つとして考えられる。学級活動・学年活動・生徒会活動を通して、「集団の力を培っている」という実感をもてる場となったのではないだろうか。また、全校での「フリートーク」などの活動を通して、お互いのことを理解しあえる場をもてたことも良い結果に繋がったのではないかと考える。

保護者において、「生きていく上で必要な知識や技術」「地域の特色を生かした教育活動」の項目が、他の項目と比較すると低い結果となっている。学校では、１年生で内船歌舞伎に取り組んだり､夏休みにはエリア防災や地域の防災活動に参加したりと､経営理念「地域とと

もにある南部中学校の創造」のもと、地域との関わりを大切にしながら取り組んでいる。その都度学校だよりをはじめ、学年・学級のたより等で生徒たちの様子を発信しているが、前期に比べて情報発信の機会が少なかったのかもしれない。「生きていく上で必要な知識」としては、職業ワイド相談、進路学習会、職場体験学習など、「地域の特色を生かした教育活動」としては、内船歌舞伎、エリア防災会、地域の防災訓練参加など、多くの取り組みが行われている。学年として保護者と関わる機会も多いことから、学年としての取り組みについて保護者にしっかりと発信していくことで、保護者の理解に繋がっていくと考える。

本校の学校行事は、生徒たちの成長にとってとても大切なものになっていると感じる。内容の精選はあるにしても、これからも行事の取り組みを大切にしていきたい。また「地域とともにある南部中学校の創造！」は本校の経営理念であり、生徒たちにとって、地域の特色を生かした教育活動は「地域を知る」という意味でも大切なことだと考える。特に、今年度より、ふるさと探訪の実施時期をずらして取り組み期間を長くしたことや、中学校として６年ぶりに内船歌舞伎に取り組んだことは、生徒たちにとって良い経験となったと感じている。今後も地域に関わる行事を大切にしていきたい。

２「主体的・対話的で深い学び」を実現し、確かな学力の向上に努める 〈※研究主任、教務主任、図書館主任〉

①各教科等の「見方・考え方」を働かせ「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けた授業改善を図る。
②自らの考えを発表したり、記述したりする内容を取り入れ、思考力や表現力を高める。
③情報活用能力の育成に向け、ＩＣＴを効果的に活用した授業を推進する。
④「やまなしスタンダード」を取り入れた授業づくりと個に応じたきめ細かな指導に努める。
⑤読書活動を推進し、授業と結びついた家庭学習の習慣化に努める。

対象		質問内容	平均値	最頻値	前期平均値	保護者わからない%
教職員	2-(1)	私は、一人ひとりの学力の向上を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組んでいる。	3.50	4	3.43	
	2-(2)	私は、授業に自らの考えを発表したり、記述したりする内容を取り入れ、思考力や表現力を高める工夫をしている。	3.38	3	3.15	
	2-(3)	私は、授業に「やまなしスタンダード」の視点を取り入れるとともに、個に応じたきめ細かな指導に努めている。	3.15	3	3.00	
	2-(4)	私は、家庭学習を習慣化させるために、授業と結びついた宿題や自主学習等の指導を行っている。	3.08	3	3.31	
	2-(5)	本校は、朝読書や図書委員会の活動などを通して、読書活動を推進している。	3.80	4	3.59	
	2-(6)	私は、学力を向上させるために、ＩＣＴの活用を心がけている。	3.15	4	2.85	
	2-(7)	私は、学習指導要領に基づき、生徒の学力を適切に評価し、授業改善を図るため、評価基準や評価方法を明確にした授業づくりに努めている。	3.46	3	3.15	
保護者	2-(1)	教員は、生徒の学力を向上させるためにわかりやすい授業に努めている。	2.96	3		16.2%
	2-(2)	教員は、評価についてわかりやすく説明し、生徒の学力や努力を適切に評価している。	3.00	3		19.1%
	2-(3)	教員は、家庭学習を習慣化させるために、宿題や自主学習などの指導を行っている。	2.97	3		3.0%
	2-(4)	学校は、朝読書や図書委員会の活動などを通して、読書活動を推進している。	3.23	3		9.0%
生徒	2-(1)	授業は、わかりやすく理解できる。	3.41	3	3.38	
	2-(2)	わからないところは先生に質問でき、先生の評価は公平である。	3.62	4	3.43	
	2-(3)	授業では、めあて（目標）を確認でき、振り返りを行っている。	3.43	3.00	3.14	
	2-(4)	グループ学習や意見交換、発表活動は、学習を深めることにつながっている。	3.73	4	3.63	
	2-(5)	ＩＣＴ（タブレット、デジタル教科書、大型テレビ）を使った授業はわかりやすい。	3.67	4	3.48	
	2-(6)	私は、宿題や自主学習などの家庭学習を習慣的に行っている。	3.47	3	3.17	
	2-(7)	私は、朝読書や図書読を積極的に行っている。	3.62	4	3.34	

【分析】

教職員・保護者・生徒の三者による評価結果を比較すると、授業改善や学習環境の充実に向けた本校の取り組みは、特に生徒から高い評価を得ていることが分かる。

中でも「わからないところは質問できる」「グループ学習や意見交流」「ICT を活用した授業」「読書活動の推進」については、3.5 を超えており、学習への意欲や理解の向上につながっていると考えられる〔生徒（2）（4）（5）（7）〕。同様に、生徒が「授業がわかりやすい」〔生徒(1)〕と感じている背景には、上述したグループ学習の場面や ICT 活用の場面をつくりながら、「主体的・対話的で深い学び」のための授業づくりに励んできた教職員の姿勢があると考える〔教職員(1)〕。関連して、前期に課題としてあげていた教職員(6)「ICT 活用」についても、前期と比べて良い結果となっており、生徒(5)との相関が見られる。

一方で、「わかりやすい授業づくり」や「評価方法のわかりやすさ」、「家庭学習の習慣化」については、教職員・生徒に比べ、保護者が低い傾向が見られた〔保護者（1）（2）（3）〕。このことから、授業内で行われている取り組みや学習の成果、評価の観点や基準が、家庭や保護者に十分に伝わっていない可能性が考えられる。また、これらの評価が低い理由の一つとして、テストの結果が影響している可能性も考えられる。授業改善や家庭学習の定着はテストの結果にすぐに現れるものではない。これからも粘り強く分かりやすい授業を心がけ、一人一人に寄り添った支援が必要であると考える。

今後は、授業や学習評価の内容については、授業参観や学校開放期間などで実際に授業を見ていただくことの他、通信やHP等を活用した情報発信を一層充実させるとともに、家庭学習の目的や方法をより明確に示すこと、現在校内研究で行っている「塵積プロジェクト」の取り組みについての周知を図ることなど、学校と家庭が連携して学習を支える体制づくりを進めていく必要がある。これらの取り組みを通して、生徒の学力向上と保護者の理解・信頼の深化を図っていきたい。

3　一人一人の個性を大切にし、思いやりの心や豊かな心の育成に努める。 〈※生指主事、教頭、道徳主任、生徒会主任〉

① 「特別の教科　道徳」のより良い授業づくりに取り組み、効果的な道徳教育を推進する。
② 共感的理解を基本とした生徒指導に努め、基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上を図る。
③ 生徒主体の自治的集団づくりを推進するとともに、すべての生徒が所属感や自己有用感を感じられる学級経営・学年経営に努める。
④ 長期欠席（不登校）や集団不適応の改善を最重点課題とし、生徒や保護者の気持ちに寄り添った教育相談体制を築くとともに、専門家や外部の関係機関との連携を図りながら取り組む。
⑤ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの予防、早期発見、迅速、丁寧な対応を心がける。
⑥ 情報モラル教育を推進し、インターネット、スマホ等の利用に伴うトラブルや危険を防止する。
⑦ 生徒指導上の諸問題について教職員の共通理解を図り、チームとして迅速・適切・丁寧に対応する。
⑧ 町内各小学校、高等学校と情報を共有し、切れ目ない効果的な生徒指導を展開する。

対象		質問内容	平均値	最頻値	前期平均値	保護者わからない%
教職員	3-(1)	私は、「特別の教科 道徳」の趣旨や目的に即したより良い授業づくりに取り組んでいる。	3.27	3	3.09	
	3-(2)	私は、共感的理解を基本にした生徒指導に努めるとともに、基本的生活習慣の定着と規範意識の向上に努めている。	3.47	3	3.44	
	3-(3)	私は、すべての生徒が所属感や自己有用感を感じられるような学級・学年経営に努めている。	**3.58**	**4**	3.33	
	3-(4)	私は、いじめ等の早期発見、早期対応に努めると共に、いじめ等を許さない人間関係づくり、集団づくりに努めている。	**3.80**	**4**	3.47	
	3-(5)	本校は、長期欠席や集団不適応の生徒や保護者に寄り添い、関係機関と連携しながら、可能な支援に取り組んでいる。	**3.76**	**4**	**3.82**	
	3-(6)	本校は、インターネットやスマホ等の利用に関わる情報モラル教育を行っている。	3.47	3	3.29	
	3-(7)	本校では、生徒指導上の諸問題について、職員間で共通理解を図り、担当者だけでなくチームで対応を行っている。	**3.71**	**4**	3.47	
	3-(8)	本校は、中１ギャップ解消のために、生徒指導について小中連携が図られている。	3.35	3	3.29	
	3-(9)	本校では、授業、特別活動（学級活動、生徒会活動、学校行事など）、部活動など、すべての教育活動の中で道徳教育が行われている。	3.41	3	3.35	
	3-(10)	本校では、生徒や保護者との面談や家庭訪問、スクールカウンセラーや心の教室相談員の活用などを通して、教育相談体制の充実に努めている。	**3.82**	**4**	**3.59**	
保護者	3-(1)	道徳の授業は、豊かな心を身につける時間になっている。	3.07	3		11.8%
	3-(2)	学校は、生徒の悩みや問題について、家庭と連携を図りながら、適切に対応している。	3.24	3		11.9%
	3-(3)	学校は、いじめ等の早期発見、早期対応に努めるとともに、いじめ等を許さない人間関係づくり、集団づくりに取り組んでいる。	3.10	3		13.2%
	3-(4)	スクールカウンセラーや心の教室相談員は、生徒や保護者の悩みや不安を解消するために役立っている。	3.24	3		26.5%
	3-(5)	学校行事（学園祭、音楽発表会、修学旅行など校外行事、儀式など）は、望ましい人間関係、集団への所属感や連帯感などの育成につながっている。	3.37	3		0.0%
	3-(6)	学級活動（学級での話し合い活動や取り組み）は、自主的・実践的な態度や健全な生活態度を育成するためにつなかっている。	3.28	3		1.5%
	3-(7)	生徒会活動（委員会活動や生徒総会など）は、より良い学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする態度の育成につながっている。	3.33	3		5.9%
生徒	3-(1)	道徳の授業は豊かな心を身につける時間になっている。	**3.77**	**4**	**3.52**	
	3-(2)	私は、学校や社会の決まりやマナーを守っている。	**3.69**	**4**	**3.61**	
	3-(3)	私は、学級や学年に安心できる居場所があり、大切にされている。	**3.60**	**4**	3.48	
	3-(4)	私は、様々な悩みや心配事について相談できる先生がいる。	**3.60**	**4**	3.17	
	3-(5)	私は「生活記録ノート」に自分の思いを書いている。	**3.57**	**4**	3.33	
	3-(6)	私は、自分を大切にするとともに、相手の立場を考えたり思いやったりしている。	**3.72**	**4**	**3.56**	
	3-(7)	私は、インターネットやスマホ、ゲーム機の利用について危険性を意識している。	**3.78**	**4**	**3.74**	

【分析】

教職員、保護者、生徒ともにすべての項目で平均値が 3.0 以上であった。また、前期と比較すると、教職員(5)「長期欠席等に関する項目」がわずかに低下している以外は、教職員、生徒ともに平均値は向上している。平均値 3.5 以上のものは、教職員では前期から３項目増えて５項目となった。生徒では３項目増えて、すべての項目が平均値 3.5 以上となった。これらの結果から、前期から確実に向上していることが明らかになり、南部中の「一人ひとりの個性を大切にし、思いやりの心や豊かな心の育成に努める」教育活動の成果が確実に現れているといえる。

特に、教職員(4)「いじめに関する項目」が前期に比べて向上し、平均値が 3.5 を上回った。関連して生徒(4)「悩みを相談できる先生がいる項目」も前期に比べて向上し、平均値が 3.5 を上回っている。これらについては、それぞれの教職員が学級経営・学年経営・部活動等を通じて生徒との関係を良好な状態に築いてきた証である。また、全教職員による丁寧な生徒の観察や、定期的なアンケートの実施等を通して、いじめの早期発見、未然防止を意識し、生徒の変化を敏感にとらえ、迅速に対応・指導してきた成果であると考えられる。また、保護者についてはすべての項目で 3.0 を上回っている。そのうち特に平均値が高い項目は(5)「学校行事に関する項目」であった。保護者は、学校行事を通しての生徒の育成を評価していることがうかがえた。

生徒の平均値は全て 3.5 以上であった。特に(7)「ネット等の危険性に関する項目」は最も高い結果となった。しかし「情報モラル」に関しては、高い評価結果に流されることなく、道徳・学活・朝の会や帰りの会などを通じて継続して指導していくことが大切である。今後も力を入れていきたい。また、１学期末に南部警察署と連携して行われた「防犯教室」の講話の内容を、教職員が継続的に伝えていくことと同時に、教職員の情報スキル向上にも努めていく必要がある。

南部中の生徒は、学校評価の結果が示すように着実に成長していることがうかがえるが、一方で、不登校生徒や教室になかなか入れない生徒もいる。そうした生徒に対し、関係学年の職員をはじめ、多くの職員が関わってより良い方向へ導こうと努めている。今後もこれらの取り組みを維持していくことが大切であると考える。

4　健康な身体の保持と体力向上を図り、健康安全への実践力を高める。〈※体育主任、教頭、保健主事、養護教諭、部活動主任〉

① 保健体育の授業を中心に、教育活動全体を通じて自ら運動を実践する態度を育て体力の向上を図る。

② 部活動地域移行を視野に入れ、「南部中部活動に係る活動方針」のもと、生徒を主体にした適切で効果的な部活動運営に努める。

③ 健康・安全・食に関する教育を推進し、健康で安全な生活を送るための生活習慣の形成に努める。

④ 生徒や教職員の健康管理に努め、情報を共有するとともに、緊急時の対応を的確に行う。

対象		質問内容	平均値	最頻値	前期平均値	保護者わからない%
教職員	4-(1)	私の学校では、保健体育の授業や部活動、体育的行事などを中心にして自ら運動を実践する態度の育成と体力の向上に努めている。	3.82	4	3.53	
	4-(2)	私は、本校の「部活動に係る活動方針」に基づき、生徒を主体にした適切で効果的な部活動運営に努めている。	3.54	4	3.07	
	4-(3)	本校では、健康・安全・食に関する教育の充実が図られ、健康で安全な生活習慣を身につけられるよう指導している。	3.59	4	3.47	
	4-(4)	本校は、生徒や教職員の健康管理に努め、健康に関わる情報が共有され、緊急時の準備や心構えができている。	3.53	4	3.35	
保護者	4-(1)	部活動は、生徒の技術や体力の向上、異年齢集団の中でのコミュニケーション能力の育成などにつながっている。	3.31	3		0.0%
	4-(2)	学校は、生徒の健康状態を把握し、適切に対応している。	3.24	3		8.8%
生徒	4-(1)	先生は、生徒の健康状態を把握し、けがや病気に適切に対応してくれる。	3.76	4	3.75	
	4-(2)	保健体育の授業や体育的行事は、体力を向上させ、運動習慣に役立っている。	3.71	4	3.66	
	4-(3)	学校では、健康や安全、食の大切さを学ぶ機会がある。	3.72	4	3.71	

【分析】

教職員･生徒による評価の全ての項目で平均値が 3.5 を上回っており､保健体育の授業や体育的行事、健康・安全・食に関する教育を通して、体力向上や健康意識の醸成が概ね図られていることがうかがえる。特に教職員・生徒ともに「保健体育の授業や体育的活動が体力向上や運動習慣の形成に役立っている」〔教職員(1)、生徒(2)〕や、「健康や安全、食の大切さを学ぶ機会がある」〔教職員(3)、生徒〔3〕〕の項目で高い評価を得ている。後期の学校生活においては、体育の授業や部活動の他、輝城祭の活動を通して体育種目にも一生懸命に取り組んだ。その他、各担任による朝の健康観察及び養護教諭との連携による生徒の健康状態の把握や、保健だよりや給食だより等による、健康や正しい食生活についての指導を後期も継続的に行っている。さらに歯みがき指導や､生活習慣の記録等を定期的に行ってきたことが、こうした良い結果につながっているものと考えられる。

一方で、保護者については「部活動が生徒の技術や体力の向上、コミュニケーション能力の育成につながっている」｢学校が生徒の健康状態を把握し、適切に対応している」とする項目がともに 3.0 を上回っているものの、教職員、生徒と比べると低い結果となっており、学校の取り組みや配慮が十分に伝わっていない可能性が示唆される〔保護者（1）(2)〕。今後は、部活動や健康管理に関する具体的な取り組みや成果を保護者へより丁寧に発信するとともに、情報共有の在り方を工夫し、学校・家庭の連携を一層深めていく必要がある。

５　一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実に努める　〈※特別支援コーディネーター、教務主任〉

①校内委員会や個別のケース会議を開催し、個別の生徒の実態を共有し、合理的な配慮のある効果的な支援を行う。

②特別支援学校や医療機関など外部の関係機関と連携して、効果的な支援を推進する。

③多様性を認め合える集団づくりのための交流・共同学習等、障がい（者）理解教育の機会を設定する

④特別支援教育に関する理解の促進と専門性の向上のため、実態に応じた校内研修を実施する。

対象		質問内容	平均値	最頻値	前期平均値	保護者わからない%
教職員	5-(1)	本校は、運営会議や生徒情報共有会議・ケース会議を開催し、支援が必要な生徒に対して、可能な合理的な配慮のある支援を行っている。	3.88	4	3.59	
	5-(2)	本校は、特別支援学校や医療機関、福祉保健課や子育て支援課などの関係機関やスクールカウンセラーと連携を図りながら効果的な支援を進めている。	3.82	4	3.44	
	5-(3)	本校は、多様性を認め合うための交流学習・合同学習や障がい（者）理解教育の場面を設けている。	3.06	3	2.76	
	5-(4)	本校は、特別支援教育に関する理解の促進と専門性の向上のために、実態に即した校内研修を実施している。	3.18	3	3.12	
保護者	5-(1)	学校は、一人一人の生徒の個性を尊重し、様々な障がいを持っている人に配慮している。	3.22	3		19.4%
	5-(2)	学校は、特別支援学校や医療機関、福祉保健課や子育て支援課などの関係機関やスクールカウンセラーと連携を図りながら効果的な支援を進めている。	3.25	3		34.3%
生徒	5-(1)	学校では、様々な人の違いや障がいを持っている人について考える機会がある。	3.65	4	3.47	
	5-(2)	私は、困っている人の役に立ちたいという思いがある。	3.75	4	3.63	

【分析】

今回の平均値は、すべてにおいて 3.0 を上回っていた。また、すべての項目で前期より数値が上がっていることからも、本校の特別支援教育が概ね肯定的に受け止められているものと考える。

その中でも、教職員(1)、(2)の評価が 3.5 を上回っている。これは、運営会議や生徒情報共有会議、また、ケース会議を丁寧に行ってきたことに加え、会議に参加していない学年部職員（非常勤講師等も含め）への情報共有を徹底して行っていることの成果でもあると考える。今後も継続していきたい。さらにスクールカウンセラーとの連携を図りながら丁寧な支援を行っていきたい。何かの事案が発生した際に，学年部職員や養護教諭のみならず、全職員で情報共有し、生徒理解を図る姿勢を大切にして，今後も取り組んでいきたい。

数値が最も低かった項目としては、教職員への 5-(3)である。前期の分析でもあったように、多様性を認め合える集団づくりのための交流・共同学習等、障がい（者）理解教育の機会が少ないからではないかと思われる。しかし、生徒の 5-(1)「障がいを持っている人について考える機会」では 3.5 を上回っている。教職員と生徒のその差については正しい分析ができないが、生徒たちは日々の学校生活の中で、多様性を認め合える集団づくりを意識しているのではないかと想像している。教職員の日々の生徒指導・支援や道徳、学活等での指導が生きているのだと考える。

また、次に低かったのは教職員への 5-(4)である。今年度も夏季休業中の校内研究会で特別支援教育に関する研修を設けたが、実態に即した内容であったか疑問が残る。今後も研修の機会を設けていくと共に、研修内容をよく検討したい。

来年度以降も各種会議等を活用し、生徒個々の情報共有を徹底すると共に、他機関との連携と研修をしっかり行っていきたいと考える。

６　安心・安全を基盤とした，家庭や地域とともにある学校づくりに努める。　〈＊教頭，教務主任，各学年主任〉

①　学校運営協議会の機能を充実させ，学校支援地域本部と連携を図る中で，コミュニティ・スクールとして家庭や地域，関係機関との連携・協働を進め，地域とともにある学校づくりを推進する。

②　地域の人的・物的資源の学校教育への活用と学校と中学生が地域に貢献する活動を積極的に進める。

③　学校安全計画，防災・防犯等の危機管理マニュアルや防災・防犯教育を実行性のあるものに改善するとともに，地域・保護者・関係機関との連携を強化し，安全管理体制の充実・徹底を図る。

④　ＰＴＡとの連携を深め，保護者同士の繋がりを強化し，家庭教育の推進を図る。

対象		質問内容	平均値	最頻値	前期平均値	保護者わからない%
教職員	6-(1)	本校は、学校運営協議会の機能を活用し、コミュニティ・スクールとして地域とともにある学校づくりに取り組んでいる。	3.53	4	3.47	
	6-(2)	本校は、地域の人的・物的資源を教育活動に活用するとともに、生徒が地域に貢献する活動を推進している。	3.50	4	3.47	
	6-(3)	本校は、危機管理マニュアル等を実効性のあるものに改善しているとともに、保護者や地域、関係機関と連携して安全管理体制を整えている。	3.47	3	3.35	
	6-(4)	本校は、ＰＴＡとの効果的な連携を深め、学校と家庭、保護者同士の繋がりを強化している。	3.59	4	3.24	
保護者	6-(1)	学校は、保護者や地域の意見や声を積極的に聞くための機会や場を設定している。（学校評価や各種アンケート、学校運営協議会の取り組みも含めて）	3.24	3		8.8%
	6-(2)	南部中学校の生徒は、地域の行事に積極的に参加している。	3.36	3		1.5%
	6-(3)	学校は、有効な防災、防犯のための訓練や教育を行っている。(保幼小中合同引き渡し訓練も含む)	3.31	3		1.5%
	6-(4)	学校は、校舎内外の施設・設備を点検し、安全に配慮している。	3.32	3		17.6%
	6-(5)	学校は、学校行事や学校開放日を活用し、保護者や地域の方々に活動の様子を積極的に公開している。	3.45	3		0.0%
	6-(6)	南部中学校の生徒は、学校の内外を問わず、よく挨拶をする。	2.95	3		8.8%
生徒	6-(1)	私は、地域の自然や歴史・文化を学んだり、体験したりすることの意義を感じる。	3.55	4	3.46	
	6-(2)	私は、地域の役に立ちたいと考えている。（地域行事への参加も含めて）	3.54	4	3.32	
	6-(3)	私は、非常災害時に備えた避難訓練に真剣に参加している。	3.84	4	3.64	
	6-(4)	校舎内外の学校の施設や設備は、安全である。	3.60	4	3.47	
	6-(5)	私は、学校でも地域でも、あいさつを心がけている。	3.73	4	3.63	

【分析】

保護者においては、(6)を除いた全ての項目で平均値が 3.0 を上回っており、全体として概ね良い評価結果となった。また教職員と生徒についてあ、教職員(6)を除いた全ての項目で 3.5 を上回る結果となっている。

特に生徒は全ての項目で 3.5 を上回っている。（前期も含め）１年を通して様々な経験を積む中で、知識や考えが深まった結果であると考える。例えば(2)「地域の役に立ちたい」については、町で行った「南部町地震防災訓練」への参加をはじめ、学校行事である「PTA 親子奉仕活動（１年生）」「地域清掃」「富士川クリーン活動」「資源回収活動」等の行事において意欲的に活動する様子が見られ、地域の方からもお褒めの言葉をいただいている。また(3)「避難訓練」について、本校では年間４回の訓練を行っている（うち３回は予告なしの訓練）。実際の訓練では、生徒たちは自分で、あるいは友だちと相談しながら状況を判断し、適切な避難行動をとろうと努力していた（生徒の感想からもそうした努力や反省が読み取れた）。こうした活動の積み重ねが、生徒からの高い評価につながっているものと考える。

教職員についても(3)を除いて全て 3.5 を上回っている。学校運営協議会等におけるご意見を参考にしながら、前述した種々の地域貢献活動の他、学園祭や音楽発表会への保護者の参加等、地域とともにある学校づくりに励んできた。そうした一つひとつの取り組みが教育活動として

の成果につながっていると判断された結果であると考える。

保護者(6)「挨拶」については平均値が 3.0 を下回る結果となった。一方で生徒(5)では「あいさつを心がけている」とする自己評価が 3.5 を上回り、相関しない結果となっている。正しい分析は困難であるが、生徒は校内での挨拶への意識は高いが、校外になると意識が低下している可能性が考えられる。あるいは校外での挨拶の際の声量や視線の配り方等により、相手に挨拶の意思が伝わっていない可能性も考えられる。分析者の印象としては、校内では生徒がよく挨拶をしてくれる感覚があることからも、今後地域の方々への挨拶を促しながら、相手に意思を伝える挨拶の所作等についても伝えていく必要があると考える。

前述した地域・保護者とともに取り組む各種活動の他、６年ぶりに中学生の内船歌舞伎を復活させて披露したり、１０月の思春期体験学習（３年生）では、何人もの赤ちゃんと保護者が参加してくださったり、町のボランティアの方々による校庭の草刈り作業や生徒下校時の見守り活動等「地域とともにある学校」を深く感じさせられる１年となった。今後も学校運営協議会をはじめ PTA や町との連携をさらに深め、生徒たちのより良い成長のために地域一体となって教育に励んでいけるよう努めていきたい。

7　教職員としての専門性や指導力を高め，チームとして教育活動を推進する。＜教頭，研究主任，情報主任＞

① 校内研究の充実を図りながら授業改善・指導力の向上を図るとともに，本校の教育課題に関わる校内研修を実施する。

② 職員室の同僚性を高め教員としての力量を伸ばし合うとともに，様々な教育課題に「チーム南部中」として力を合わせて取り組む。

③ 業務の重点化と精選を行うとともに，統合型校務支援システムの活用を行い，部活動地域移行も視野に入れながら，可能なことから教職員の働き方改革を推進する。

対象		質問内容	平均値	最頻値	前期平均値	保護者わからない%
教職員	7-(1)	私は、校内研究に積極的に参加し、授業の改善や指導力の向上を図るとともに、学校課題についての校内研修に積極的に参加している。	3.53	4	3.35	
	7-(2)	本校は、職員室内で共に学び合い、力量を高め合う関係があり、様々な教育課題に職員全体がチームとして取り組んでいる。	3.65	4	3.41	
	7-(3)	本校では、業務の重点化や精選が行われ、可能なことから多忙化の改善が図られている。	3.29	3	2.59	

【分析】

全ての項目で平均値が 3.0 を上回っており、概ね良い結果となった。

特に(1)は前期評価で昨年と比べて若干評価が下がっていた部分であったが、今回は 3.5 を上回る結果となった。校内研では初任者研修実習校として３名の初任者とともに研究授業の参観を含めた研修を行った。授業後の研修会の方法も工夫され、大変充実した機会となっており、平均値の上昇につながっているものと考える。

また(2)も高い数値となっている。生徒指導上での諸問題等、日々様々な教育課題がある中であるが、職員同士のコミュニケーションがよくとれた明るい環境のもと、校長を中心とした学年との連携の中で、適切な方針の共有がなされていることがこの結果につながっているものと考える。

さらに(3)については前期評価結果を受けての課題として捉えていた部分であった。前期評価時の改善策として挙げた「運営会議を活用して職員会議の議題を減らす」方策や、「校務支援システムの掲示板機能を活用する」「全職員での朝礼を週１回とする」等の方策が浸透してきていること、また校長を中心に来年度の部活動のあり方について職員全体で議論をし、朝練習を廃止する方針が決定されたことなども数値の上昇につながっているものと考える。

今後も教職員のコミュニケーションを大切にしながら、授業を中心として生き生きと職務に邁進できるよう、皆で力を合わせて進んでいきたい。

8　その他

対象		質問内容	平均値	最頻値	前期平均値	保護者わからない%
教職員	8-(1)	輝城祭や音楽発表会は、生徒の豊かな心を育て、自己有用感や成就感を得られる行事になっている。（後期のみ）	3.88	4		
	8-(2)	身近な職業調べ、職場体験学習、ワイド相談、進路学習などはキャリア教育の視点で意義ある行事になっている。	3.65	4	3.47	
	8-(3)	ふるさと探訪、スキー教室、県内めぐり、修学旅行などは、集団生活や社会でのルールやマナーを学び、自治的能力を育む機会になっている。	3.71	4	3.50	
保護者	7-(1)	生徒は、学校のたよりや通知、連絡物を保護者にきちんと渡している。	2.82	3		0.0%
	7-(2)	学校は、各種のたよりやホームページなどで学校の様子を保護者に伝えている。	3.21	3		6.0%
	7-(3)	アシスト授業や行事や部活動での連携など、南部中・身延中・身延高校の「中高連携」の取り組みは、「学習意欲の向上」や「基礎学力の定着」につ	3.07	3		17.1%
生徒	7-(1)	私は「脚下照顧」「無言清掃」「合唱」「応援」「集団行動」など南部中の文化は大切だと考えている。	3.83	4	3.68	
	7-(2)	私は、学校のたよりや通知、連絡物は保護者にきちんと渡している。	3.62	4	3.30	
	7-(3)	私は、学校が楽しい。	3.59	4	3.47	

【分析】

保護者(1)を除いた全ての項目で平均値が 3.0 を上回っている。また、教職員と生徒については全ての項目で 3.5 を上回っており、高い評価結果となっている。

特に後期は輝城祭や音楽発表会といった大きな行事があったが、取り組み期間中、意欲的に取り組む生徒の姿は素晴らしかった［教師(1)］。また学年ごとに、キャリア教育の各種取り組みや校外学習等、年間を通して多くの活動があった。各々の活動に向けての学年部の準備は大変であったが、どの活動も生徒の成長の面で有意義な機会となったことがこの結果に現れているものと考える［教師(2)(3)］。さらにこうした行事以外の「南部中の文化」について大切だと考えている生徒が多い［生徒(1)］。こうした行事や日常的な取り組みについては、生徒や教職員の負担過多にならぬよう、内容・方法の改善を考えつつ取り組んでいきたい。

保護者(1)「連絡物」については 3.0 を下回る結果となっている。一方で生徒(2)では 3.5 を上回っており、相関しない結果となっている。正しい分析は困難であるが、保護者と生徒との評価基準の違いはあると思われる。学校と家庭ともに生徒への確認・指導をしながら、着実な受け渡しに努めていきたい。

生徒(3)「私は学校が楽しい」についての平均値が 3.5 を上回っていることから、多くの生徒が学校を楽しいと感じている。その一方で「そう思わない」「あまりそう思わない」と答えた生徒について、その生徒がそう感じる理由を探るとともに、その生徒が楽しさや満足感を感じられる手立てを考えていきたい。

生徒自由記述

もっと全校で学年、男女関係なく関われる時間を増やしてほしいです。フリートークやレクなど忙しいのはわかっているけれど、生徒会で行ってほしいと思います（１年）
みんなが楽しめるように、校則を変えたりすると良いと思います（１年）
学年との交流をもっと深めるために、レクやフリートークの時間を増やす（１年）
生徒たちの意見をできるだけ再現できる学校にしてほしい（１年）
他学年との交流を増やす（２年）
全校の喧嘩をなくす（２年）
もっとフリートークをやっていけばいいと思う（２年）
先生が対応が女子だけあまいとおもう。男子と同じ対応して欲しいとおもいます（３年）
髪の校則を付ける意味がわかりません（３年）

保護者理由・自由記述

いつもありがとうございます。 輝城祭について、１点お願いします。 この酷暑の中、計画や練習など熱中症対策に大変苦労されたと思います。そんな中、エアコンのリースは大変ありがたかったです。 ただ体育の部については、現状午後の開催となっており、1番暑い時間帯での実施となります。今年度は雨天のため、２日開催となりましたが、熱中症対策、生徒や先生方のことを配慮すると、金曜日に文化の部、土曜日の午前中に体育の部でもよかったかなと思いました。授業時数等々の関係もあるかと思いますが、安全第一でご検討いただけるとありがたいです（１年）
子供から手紙を受け取っていないため、アンケートの回答が遅れました。 申し訳ございません（１年）
自分の機嫌で生徒に罵声を浴びせる先生がいると聞きました。（１年担任ではありません）情緒不安定で生徒に当たる様でしたらお休みして頂きたいです（１年）
伝統や文化、昔からある慣習を重んじるあまり、生徒達の新しい価値観や想像など、子ども達ならではの自由な発想に結びついていないように感じました（１年）
部活動について、年度はじめに、部活動の目標や活動方針など示していただきたい。また、顧問と外部指導者が連携して共通の考えのもと、教育的指導をお願いしたい（２年）
学力が上がらない事がとても心配です。 放課後に勉強会を行っていましたが、成績は変わらないし、できる子とできない子の差がありすぎると思います。 部活もやる気のある子とない子のモチベーションが違いすぎてギクシャクしたり、チーム力が低いです。 生徒数も年々減っていくと思うので、行事なども今までのようにはできなくなってくると思っています（２年）
部活朝練はあまり意味がないと思っています。練習時間を増やすなら放課後30分長くしたらいいと思います。受験生に美術の絵や修学旅行記などに時間かけすぎだと感じました。もう少勉強に集中させてあげてほしいなと感じます（３年）
自主学習の大切さも分かるのですが、一年生、二年生の時には、プリントなどの宿題が少なかったように思います 自主的に勉強する子供は、ほとんどいないと言っても良いと思います 家庭で子供に指導する事も限界があります。もう少し、基礎のうちから、宿題で英単語や漢字、計算問題など強制的にやらせる必要があると感じました（３年）
毎年アンケートで評価をいざ回答しようと思うと難しく、また、保護者目線で学校を、良していく要望が浮かびませんでした。もう少し学校の活動のこと等、関心を寄せることができたらと今になり思いました（３年）

教職員自由記述

・職場の人間関係等も良好であり、なにか対応すべきことが発生した場合には、校長先生・教頭先生を含め関係する職員が集まり適切に対応をすることができる点も成果だと思います。